

奈良県の地場産品、伝統工芸品は何か

○奈良県の地場産品

軽装履



しょうわ ねんごろ げた はんぱい お こ
昭和30年頃から下駄の販売が落ち込み、
けいそうぎ せいさん げんざい
軽装履が生産されるようになり、現在では
ならけんさん こくない たか わりあい し
奈良県産が国内で高い割合を占めています。

紳士靴



めいじ ねん ならけん くつづく はじ たいしょう しょうわ
明治29年から奈良県で靴造りが始まり、大正から昭和に
かけてビジネスシューズの需要増大とともに、奈良県の
さんぎょう せいちょう
産業として成長しました。

毛皮



しょうわ ねんたい うさぎ かわ ちゅうしん けがわせいさん
昭和20年代に、兎の皮を中心に毛皮生産が
はじ いま
始まり、今ではミンク、キツネなどの毛皮を用
さまざま しょうひん つく
いた様々な商品が作られています。

グローブ、ミット



やまとこおりやまし
大和郡山市

みやけちよう
三宅町

てんりし
天理市

スポーツシューズ

スキー靴



こうりようちよう
広陵町

やまとたかだし
大和高田市

ごせし
御所市

うだし
宇陀市

鹿革



しかがわ けんどう ほうぐ
鹿革は、剣道の防具やメガネふ
しょう
きなどに使用されます。

靴下



めいじ ねんたい げんざい こうりようちよう くつした せいさん はじ いま
明治40年代に現在の広陵町で靴下の生産が始まり、今
ならけん くつした いちだいさんち
では奈良県は靴下(ソックス、タイツなど)の一大産地とし
みと
て認められています。

サンダル



よしのちよう
吉野町

箸



よしのすぎ もち さいこうきゆう すぎばし
吉野杉を用いた最高級の杉箸
たか ひょうか え
は高い評価を得ています。

○奈良県の伝統工芸品(国指定)



たかやまちやせん いこまし
高山茶筴 (生駒市)
むらまちじ たい げんざい かたち はじ つく さどう りゆう
室町時代に現在の形を初めて作ったといわれ、茶道の隆
せい
盛とともに茶筴作りが盛んとなり、その技術が代々伝承さ
れてきました。



ならふで ならし
奈良筆 (奈良市)
そうくうかい ちゆうごく ふで せいほう も かえ なら せいぞう
僧空海が中国から筆の製法を持ち帰り、奈良で製造され
るようになったのが始まりといわれています。



ならすみ ならし
奈良墨 (奈良市)
こうふくじにたいほう じぶつどう とうみょう すず あつ にかわ
興福寺二諦坊で持仏堂の灯明の煤を集め、これに膠を
ま
混ぜてつくったのが始まりといわれています。